奈良県宇陀市
オーガニックビレッジ

宇陀市は有機農業の産地づくりに取り組みます

令和４年１２月８日

宇陀市長　金剛一智

宇陀市のこれまでの取組み

奈良県と連携し、奈良県独自の取組みである特定農業振興ゾーンを伊那佐東部地区（51.5ha）で設定し、農業の効率化や農地整備等を行い、高収益作物の生産拡大や品質・生産性の向上を図ってきました。

目指す将来像

大和高原宇陀ブランドによる農業振興を目指した軟弱野菜、有機野菜、花き等の生産拡大

栽培が盛んな軟弱有機野菜
(ミズナ、コマツナ、ホウレンソウ等)

有機野菜

花き（ダリア)等の
高収益作物

取組み

・農地中間管理事業を活用して、農業法人や大規模農家、 新規就農者など多様な担い手に農地を集積
・用排水路施設の更新や整備、土層改良等の基盤整備
・高収益作物の生産拡大のためハウスなどの施設整備を進め、省力化のためスマート農業の導入を検討

オーガニックビレッジ取組み経緯

宇陀市の有機農業の課題

- 生産性の向上
- フードロスの削減
- 規格外品の活用
- 多様な販売先の確保
- 担い手の育成

農業を取り巻く情勢

- 担い手の減少
- 遊休農地の増加
- 燃料・肥料価格の高騰
- 気候変動・自然災害
- 新型コロナによる消費の変化
- 地球環境問題とSDGsへの対応

みどりの食料システム戦略

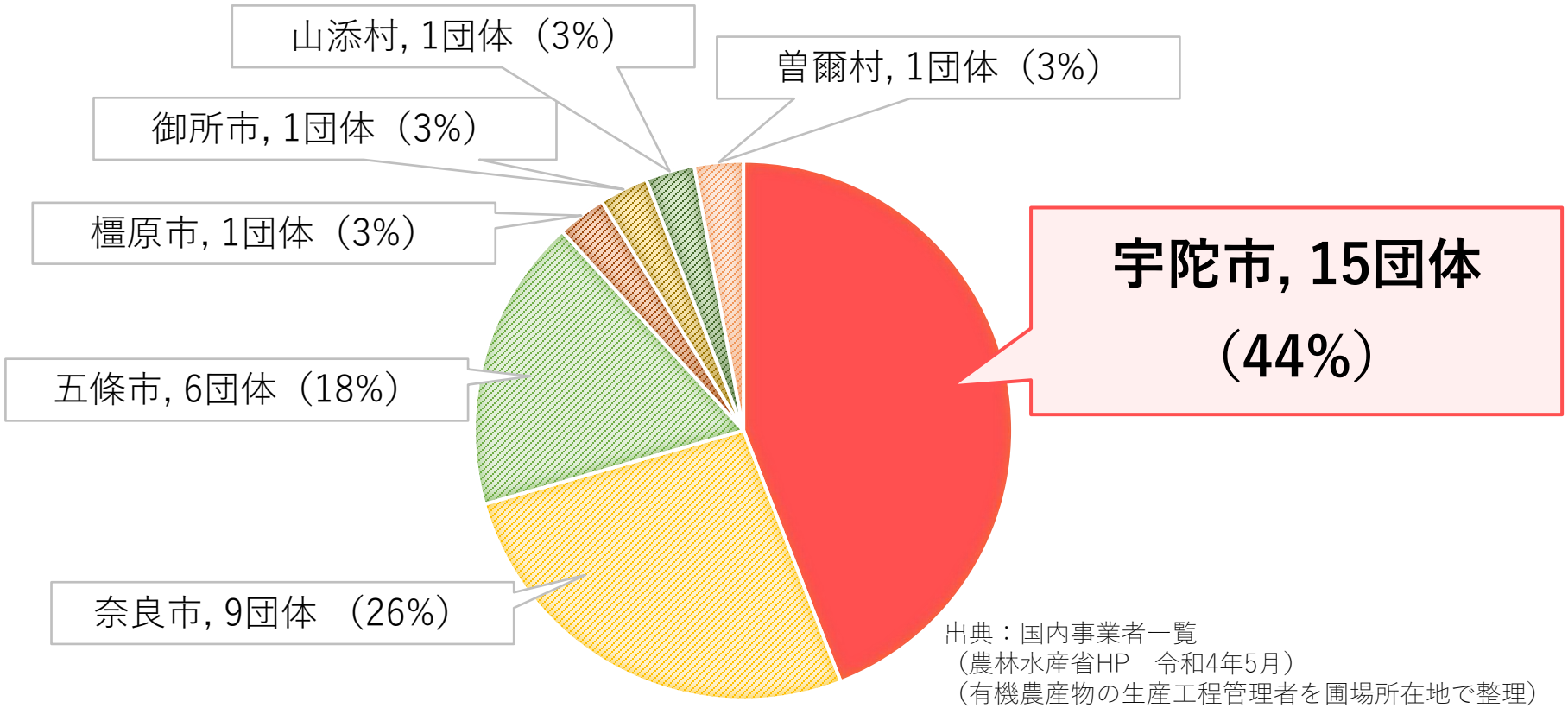
オーガニックビレッジを起点に

- 持続可能な農業の振興
- 食と農の活性化による魅力あるまちづくり

これまでの取組み

冷涼な気候等から、有機農業が盛ん。有機農業の担い手は、10経営体が参加する山口農園グループや企業が設立した農業法人の類農園、はじまり屋、奈良みらいデザイン(株)等があり、独自の販路確保や担い手育成等、多様な経営を展開。

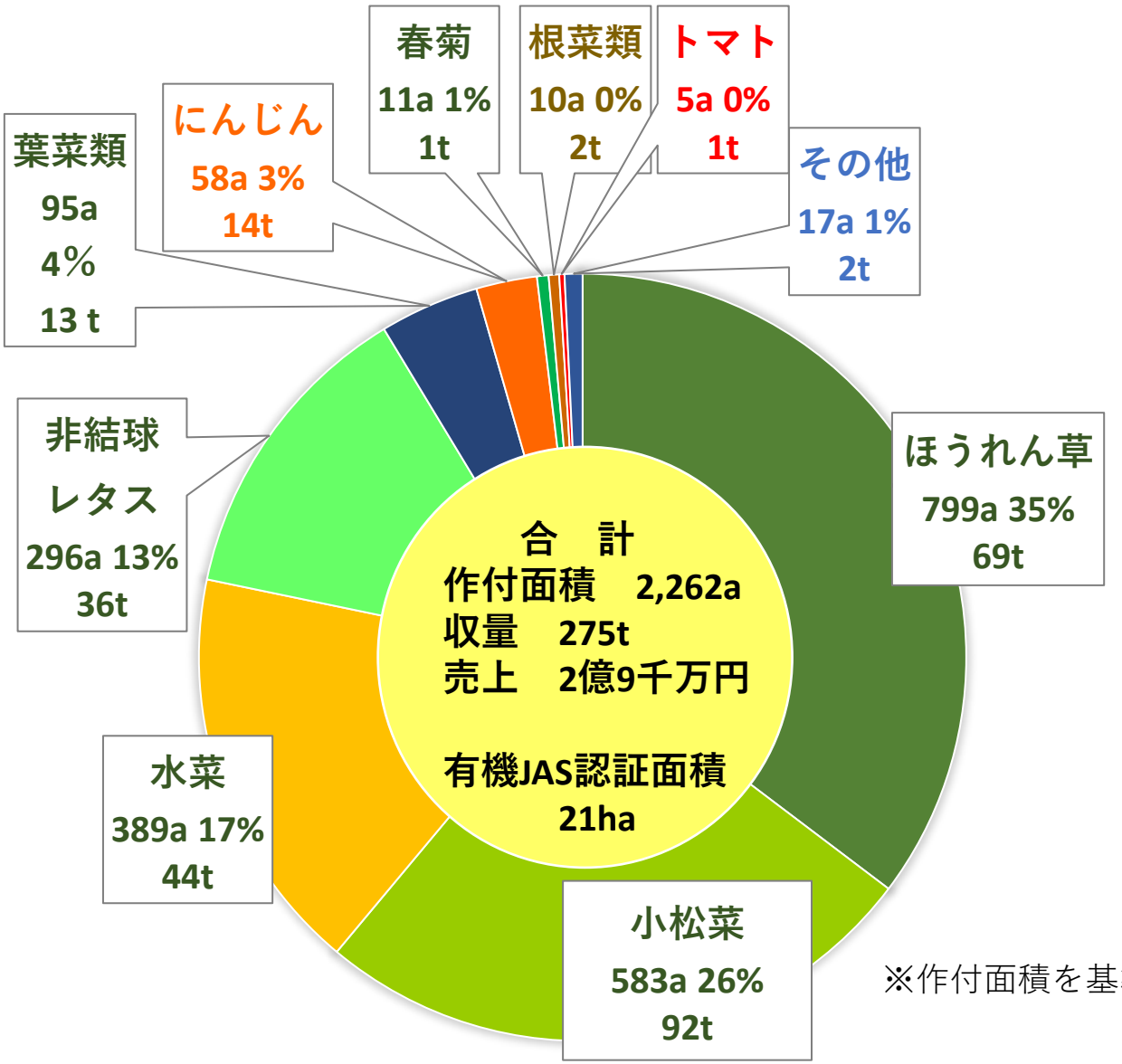
奈良県内の有機農産物の経営体数



出典：国内事業者一覧
（農林水産省HP　令和4年5月）
（有機農産物の生産工程管理者を圃場所在地で整理）

宇陀市の有機農業の現状

宇陀市における有機農業の状況（作付面積と収量）（推計値）



※作付面積を基準としてグラフを作成

宇陀市の取組み（生産）

1. 有機農業の普及

- 有機農業への新規参入に向け、研修会の開催、参入支援の実施
- 市内畜産堆肥の生産や活用方法を検討・改善※

※宇陀市は肉用牛の生産が盛ん。県全体の約８割を肥育。

2. 生産出荷調整作業の改善

- 作業効率改善に向けたフードロス削減指導研修会の開催

3. 長期鮮度保持の実践・拡大

- 新技術(長期鮮度保持可能な電場冷蔵庫)による
  安定的・効率化な出荷体制の試行

市内畜産堆肥の活用

企業の業務改善ノウハウによる
栽培管理作業

長期鮮度保持可能な
電場冷蔵庫

宇陀市の取組み（流通、加工、消費）

1. 加工品の開発

- 規格外品を利用した常温保存可能なペースト、二次加工商品の開発

規格外品を利用した
無添加無着色のペースト

2. 加工品のPR・規格外品の活用

- ペーストを活用したメニュー開発及び販路開拓

3. 規格外品の物流開拓・商品化

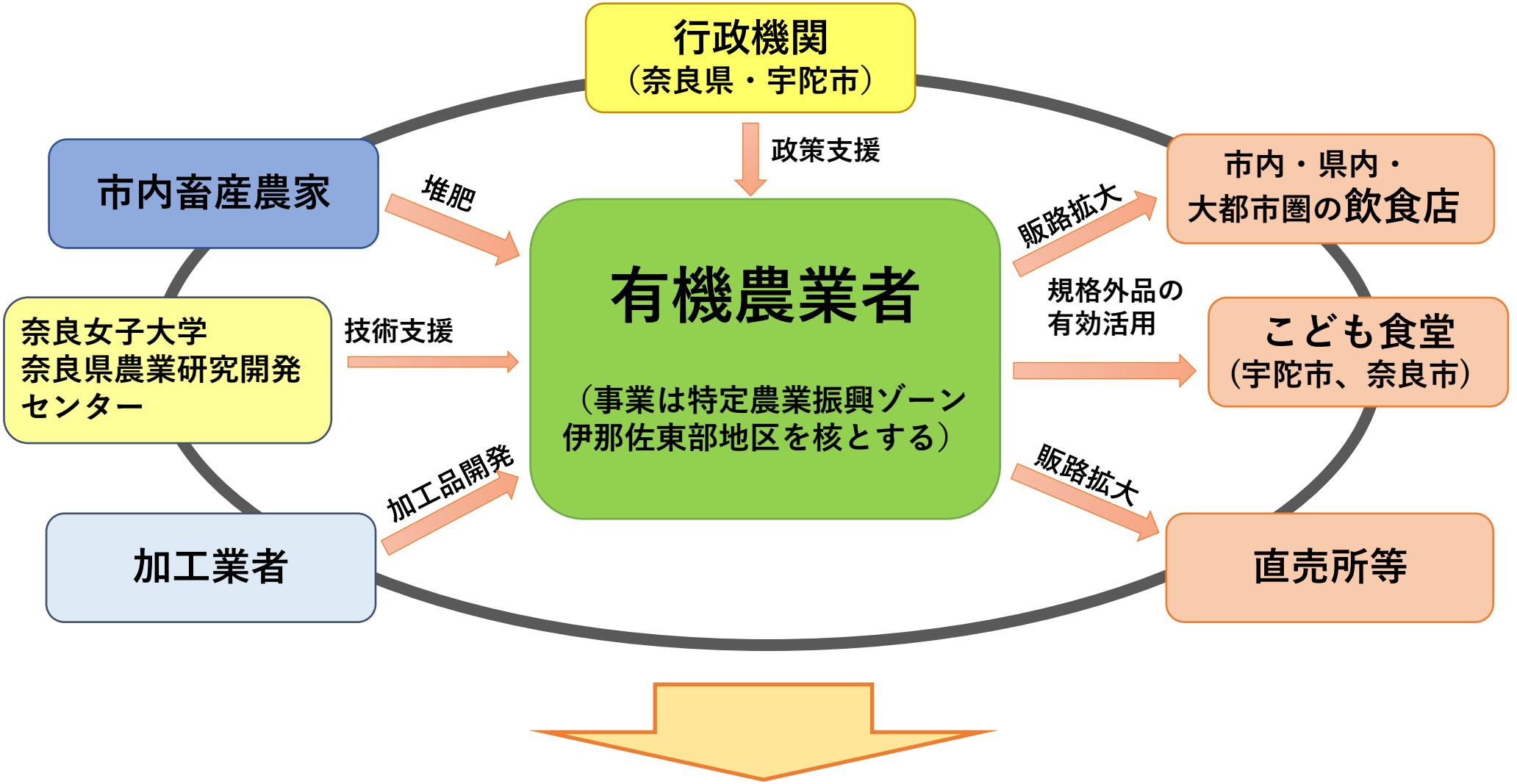
- こども食堂等への規格外品の出荷拡大
- 福祉施設との連携による仕組みづくり

4. 消費PR活動等

- 市内外直売所やイベントへの出店支援
- 市民への食育活動
- ＰＲホームページ・シンボルの作成
- 通販サイトの制作・運用

ﾌｰﾄﾞ ｽﾄｱｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ ﾌｪｱ2022に出展

推進体制



有機農業の一大拠点（オーガニックビレッジ）の創出

オーガニックビレッジ宣言

宇 陀 市

宇陀市では、豊かな自然環境と大和高原地域の恵まれた気候等から、有機農業が盛んで、多くの生産者が意欲的に活動されています。

SDGsへの対応や環境に優しい農業が求められる時代へ向かい、本市は、持続可能な農業の振興と環境負荷軽減のため、有機農業を地域全体で推進します。

みどりの食料システム戦略を踏まえ、生産者のみならず市内外の事業者や消費者それぞれの理解と連携を深め、有機農産物の生産から消費までを通し、有機農業の推進に向けた取組を展開していきます。

宇陀市は、これら有機農業推進の取組を起点とし、食と農の活性化により、魅力あるまちづくりを目指し、ここに「オーガニックビレッジ宣言」をします。

令和4年11月27日

宇陀市長 金剛一習

宇陀市公民連携プラットフォーム
第１回キックオフフォーラムにて宣言

ご静聴ありがとうございました。